

転倒は私だけの要因が招いたのでしょうか？

2012. 08. 23

26-31-80-6 小川清史



ご存知のように入院中の8月14日に院内で転倒してしまいました。このことで神田先生や血液浄化センターの皆さんには一切のミスは無く、もし責任を問われたとしたら本当に申し訳なく思っています。そして私が強引にドライを下げた発生したと一般的には思われている節もあり、私としてはちょっと心外です。さらにこのことで私は要注意人物になったのか、また対策なのかはよく判りませんが、透析完了時の立位血圧測定がルーティン化されたようで、私は良く知りませんが、この対策だけで本当に再発が防げるのかどう

うかは疑問が残るところです。私なりに整理すると、いくつかの要因の競合が考えられます。

1. 私のドライがややタイト気味であったことは確かですが本当に最大の要因でしょうか？

転倒した日の透析完了時の血圧は115といつもよりも高めなほどで、それ以下の状態でも帰宅後の生活では安静にしていますので今まで何のトラブルも体験していません。転倒後の先生の説明は私の今後のドライウエイトの制限に関する指示だけでした。ただし、現在ダイエット中でやや低タンパクであったことも確かですが、新たにクリットリンも知りましたので、今後も過除水にならないように気をつけます。ただし、除水でダイエットをすることは全く考えていません。



2. 入院中に病棟からの処方薬が変わったことが大きく関係しています。

転倒後の17日午前中に“アダラートCR、ディオバン80mgが一包化の薬の中に入っているので中止する！”と知らされ、私が“それら降圧剤は血圧が高い時だけ飲むので、従来から一包化には入っていない”と答えると、“今までも入っていた”とする相反する見解を先生から聞きました。これが単なる見落としか、電子カルテ等のシステム上の問題か、または入院時の担当医の先生と神田先生との連携問題かは判りませんが、外来患者の今までの投薬履歴を病棟で正しく引き継げなかったことだけは確かであり、この事を、単に気をつけるとかの対処で終わらせること無く、手順、ルール、もしくはシステム自体等の見直しで、今後起きない仕組み作りが必要だと思えます。

3. なぜ透析直後に心臓に負荷のかかる『大きな深呼吸を3分間繰り返す』心電図検査を入れたのでしょうか？

ある方からは、その程度のことで転倒が起きる事自体が問題とも言われましたが、もし透析後に3分間の深呼吸に耐えられるのが透析の条件であれば、私には血液透析は出来ないと思います。普通の人でも気分が悪くなったり、目眩が起きる可能性のある検査をなぜこのタイミングで行ったのか、またその必要性があったのか、私には判りませんし、なぜ検査を入れたのかの説明も全くありませんでした。

3. 心電図検査中および終了後の観察について。

通常測定の後、『次は、自律神経を調べますので、大きな深呼吸を3分間繰り返してください』と指示され驚きましたが、深呼吸をし始めると途中で苦しくて目眩がすることを技師の方に伝えましたが、“あと30秒です”と言われて断ることも出来ずに何とか耐えました。しかし終了後自力で起き上がれないので技師の方に起こしてもらい、フラフラしながら何とか廊下に出ましたが、考えて見ると、技師の方はやや事務的で、検査終了後の患者の容体には全く無関心だった印象があり

- ①もし“大丈夫ですか？”の一声を掛けて頂けていたら、
- ②もしくは、検査対象者が自分で起き上がれない、そしてドアまでの検査対象者の歩き方を注視して頂けていたら、
- ③さらに検査対象者が透析直後で血圧が下がりやすいことを事前に知っていたら、
- ④終了後の検査対象者の容体によっては、その場で血圧測定が出来る準備があれば、

このような事にならなかった可能性は否定出来ないと思います。さらに翌日この技師の方に、前日転倒したことを伝えると“ああ、そうですか”と素っ気無い返事でした。多分今まで、『大きな深呼吸を3分間繰り返す』程度の事で体調を崩す検査対象者が出なかったことが、慣れを生み、何らかの観察義務の欠如になっている可能性があったかどうかはスタッフの皆さんでも考えてみてください。当時の私は、強い目眩とふらつきを感じ、足がもつれて、これではとても自力では歩けないと判断して廊下の手すりに捉まり少し休んでから、手すりに捉まりながらゆっくりと歩き始めましたが、廊下の角を曲がったところで転倒しました。対策が、患者の透析終了時の立位血圧測定だけならば、対策が絶対に不足していると思います。